

神戸学院大学  
教育後援会

# 会報

2016 JANUARY  
No. 137



## CONTENTS

## 神戸学院大学創立50周年記念ロゴマーク

本学は2016(平成28)年に創立50周年を迎えます。学名でもある「神戸」を象徴する海を、青の波のラインで表現。

生命の起源である海の「創造性」や、神戸から世界につながる「グローバル」の意味も込めます。50年、100年と積み重ねる伝統とともに、大きく開かれた挑戦のフィールドがあることを訴求します。

- 2 **新年のご挨拶**  
神戸学院大学教育後援会 会長 一岡 邦博
- 3 **2015年度 大学見学会のご報告**  
●食堂体験、就職説明会、キャンパス見学ツアー  
●支部からの感想文
- 7 **キャリアセンター** 就職活動の最前線
- 9 **【特集】** ボランティア活動支援室 災害支援ボランティア報告  
教育後援会の補助を受け、  
常総市、和歌山で本学学生が活動
- 11 **学生の活躍**
- 15 **CAMPUS TOPICS**
- 17 **事務局 information**  
**学生支援事務局**  
●保証人の変更および住所変更について  
●奨学金継続願の提出について ●返還手続きについて  
●2016年度奨学生募集  
●マイナンバー制度が始まりました
- 19 **地域と共生する大学～神戸学院大学**  
神戸学院大学と神戸マラソン  
神戸マラソンを通して生まれる「きずな」
- 22 **国際交流 海外研修レポート**  
**【裏表紙】** 2016年度行事予定表  
医務室からのお知らせ



# 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

教育後援会会員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

2015年は支部総会、教育懇談会、大学見学会などの教育後援会活動に多数ご参加いただき誠にありがとうございます。皆様のお陰をもちまして、2016年を迎えることができました。日頃のご支援と併せ、厚く御礼申し上げます。

神戸学院大学は2015年4月にグローバル・コミュニケーション学部の開設、法学部等の学部移転、それに伴いポートアイランドキャンパスに新しい校舎D号館の新設など2016年の50周年を迎えるにあたり劇的な変貌をとげております。

教育後援会につきましても、2015年度を大学創立50周年への“繋ぎの1年”と捉え、九州南部支部を新たに設置し、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の会員の皆様へ教育後援会の支援が行き届く体制となりました。また、大学祭と同日に行う大学見学会では、初めて2日間開催し、昨年の1.5倍の多くの会員の方々にご参加いただき、大学での学生の輝く姿、充実した大学施設等をご覧いただきました。

今後も「大学と家庭のかけ橋」となるべく、全国各地での支部活動を中心とした会員交流や会報誌による情報提供、課外活動への助成など学生生活の支援を行い、学生が有意義な大学生活を送れるよう引き続き応援してまいります。会員の皆様の一層のご参画とご支援をお願い申し上げます。

最後に本年が学生、大学、そして教育後援会会員の皆様にとって素晴らしい年になりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



神戸学院大学教育後援会

会長 一岡 邦博

2015年度

# 大学見学会のご報告

10/31  
・  
11/3

今回初めて2日間、2会場での開催となった大学見学会。プログラムも自由度の高いものとなり、これまでを大幅に上回る多数の皆様のご参加があり、イベントを思い思いに楽しんでいただくことができました。



今回の大学見学会は、両キャンパスで大学・学生の活気に触れていただくため、10月31日(土)にポートアイランドキャンパス、11月3日(火・祝)に有瀬キャンパスの2カ所での開催となりました。両日とも好天に恵まれ、18の支部から、昨年の1.5倍、1,049名の皆様にご参加いただきました。午前中は「食堂体験」、午後からは「就職全体説明会(希望者には終了後個別懇談)」、「学生によるキャンパス見学ツアー」、「大学祭自由見学」の3つのメニューが用意され、様々なかたちで楽しんでいただけようになりました。



# ポートアイランドキャンパス

## port island campus



ガイド役はオーキャンズの学生が活躍。  
オープンキャンパスでの案内とは勝手が違い少し緊張したそうです



## 食堂体験、就職説明会、 大学見学ツアー

ふだん学生が食べているものを試食する食堂体験は大好評で、早々売り切れた人気メニューもありました。また、参加者お一人ずつに金券チケットをお渡しして、食堂でも、学生たちの模擬店でも使用できるようにしましたので、模擬店で軽食やスイーツを買って楽しむ方々も大勢いらっしゃいました。

午後からの就職全体説明会では、リクナビ副編集長の井根恵さんから最近の就職事情と親の心構えについてお話いただき、続いてキャリアセンターから4年生の就職内定等、現状についての報告がありました。説明会の後は、個別懇談の時間が設けられ、多くの保護者の方々のご参加がありました。恒例のキャンパス見学ツアーでは、D号館が完成したこともあって、ポートアイランドキャンパス会場の参加者は150名近くとなりました。オープンキャンパスで高校生を案内している学生スタッフ「オーキャンズ」の皆さんがガイド役になり、キャリアセンターや図書館をはじめ大学施設を見学しました。キャリアセンターでは、就職についてどのようなサポートがされているか担当の方から詳しい説明があり、求人ファイルの棚が並ぶセンター内部の様子を見てまわりました。見学会に参加された方からは、「大学内部の見学ができて良かった。学生スタッフの話から、日頃子供がどんな学生生活を送っているのか、イメージが膨らんだ」といった感想をいただきました。



大好評となった食堂体験  
(フードコートシーガル、D号館1階)



就職全体説明会の様子



多くの会員の方々のご参加があった就職懇談会



# 有瀬キャンパス arise campus



有瀬図書館を見学する参加者の皆さん



## 大学祭也大盛況

大学祭は大変盛況で、展示やミニコンサート、メインステージでの工夫を凝らしたイベントなど、とても見応えのあるものになっていました。

大学生になると、子供が一体どんな生活をしているのか、高校時代のように把握できなくなりがちです。ある参加者は、今回お子さんがサークルの模擬店で頑張っている姿を初めて見たとのこと。「仲間との話しぶりや、お客さんとの接し方などから、随分成長してきていることを確認でき、今日はそれが何より嬉しかった」と話しておられました。下宿しているお子さんとの神戸の街歩きを楽しみに、泊まりがけで来られた方もおられ、皆さん思い思いのかたちで、大学見学会をたいへん有意義なものにさせていただきました。



懐かしい学生時代を思い出します  
(レストランハーフタイム、9号館3階)



キャリアセンターからの説明に皆さん真剣な表情

## 支部からの感想文

### 大学祭について

徳島支部長 永野 孝幸

今年度初めての試みによる2日間開催でのポートアイランドキャンパス、有瀬キャンパスの大学祭に会員の方々にご参加を頂き、天候にも恵まれ有意義な時間を過ごせました。また、学生の元気な姿を拝見し若いエネルギーをいただけたと感じております。

ポートアイランドキャンパスにおいては、D号館の完成、施設の充実さには一保護者として大変満足いたしております。大学の熱意を肌で感じる事ができ本当にいい機会でありました。また、有瀬キャンパスにおいても施設の充実が図られているのを拝見でき嬉しく思っております。4年間という長いようで短い歳月ではありますが、学生たちには1日、1日を大切に、また今だからこそできる経験をして、一人前に成長してくれることを願っています。

今後、一人でも多くの会員の方々にご参加を心よりお願いし、大学と学生の活気を是非とも肌で感じていただければと願っております。



### 大学見学会に参加して

九州南部支部 猿渡 博実

九州南部支部からは、ポートアイランド・有瀬キャンパスの二会場に、十名程度の会員の方に御参加いただきました。

ポートアイランドキャンパスでは、当日は快晴に恵まれ、心地よい海風を肌を感じながら楽しいひとときを過ごすことができました。有瀬キャンパスにおいても、秋晴れの空の下、多くの方が訪れ、活気あふれる大学祭となりました。

参加者の多くが、食堂体験やキャンパス見学ツアーに申し込まれていましたが、きっと日頃のお子さんの大学生生活の様子をイメージすることができ、安心されたのではないのでしょうか。

大学見学会は、我が子の学習環境・生活環境を知るまたとない機会となりましたし、学生の澁刺とした姿やさわやかな態度に触れ、たくさんエネルギーをもらうことができました。是非一人でも多くの会員の皆様に御参加いただきたいと願っております。

# 就職活動の最前線

就職活動は保護者のご理解とご協力が不可欠です。

## 2016年卒(2016年3月卒)採用動向

過日、2015年10月1日、多くの企業で2016年卒の内定者を迎えた内定式が執り行われました。いよいよ社会人に向けた最終準備の時期に入ります。大学生活は学生生活の集大成、仕上げの期間でもあり、また社会人への最



終準備・助走期間でもあります。卒業

(修了)所要単位を確実に取得し、卒業(修了)することが前提となりますので、気を緩めないようお伝えください。

現在、就職活動中の学生は2016年4月1日の入社式を目指して、継続して就職活動を進める必要があります。地元、関西圏の企業を中心に「神戸学院大学の学生を採用する」、「四年制(薬学部六年制)大学卒の学生を採用する」強い思いの込められた多くの求人が続いています。決してあきらめずに、遅滞せず、継続することが何より重要です。キャリアセンターを活用してください。訪ねてください。求人票や各種データ資料をご覧ください。就職全般相談、求人情報の提供、自己PR・志望理由書・履歴書添削、面接練習等キャリア(就職)に関する相談に対応いたします。最

後まで一緒に頑張ってください。

## 2017年卒(2017年3月卒)採用動向

2017年3月卒の採用スケジュールは、3年次生の3月に採用情報公開・エントリー受付、4年次生の6月選考開始の予定です。ただし、採用スケジュールが業種や企業によつて多様化することが予想されます。

また従来からの「厳選採用(採用基準未達の学生は、採用予定人数に足りていなくても採用しない方針)」傾向は続くことが予想され、あらかじめしっかりと準備と対策をしておくことが強く求められます①「早めの着手による十分な準備をしておく」こと②「就職活動量を増やす」こと

③「内定をもらうまで就職活動を継続する」こと。現況と同様に依然厳しい就職環境であるとの認識のもと、緊張感を持ちつつも、焦らず、着実、確実に就職活動を進めていきましょう。



## 2015年度 キャリア支援関連行事 &lt;&lt;2017年3月卒業(修了) 予定者対象&gt;&gt; (最新 ご参考)

行事は諸般の事情により日程・会場の変更および追加する場合があります。掲示板や就職情報システム JobHunter にて最新の情報を随時確認してください。

行 事 名	対象学年 3年	月	日	曜 日	時 間	会 場		主 な 内 容
						KPC	KAC	
就活メイクレッスン(女子学生限定) 時間・実施内容等検討中です。	●	1	13	水		—	キャリアセンター	就活にふさわしいメイクのノウハウ
			14	木		—	キャリアセンター	
			15	金		キャリアセンター	—	
			18	月		キャリアセンター	—	
SPIテストセンター模試(Webテスト対策)	●	1	~3月31日(木)の期間に各自のPCで受験					筆記試験対策(SPIテストセンター模試+復習)
第8回就職ガイダンス	●	1	12	火	15:20~16:50	D101	232	就活の重点ポイント再復習
			13	水	15:20~16:50	D301	232	
			14	木	15:20~16:50	D101	231	
			15	金	15:20~16:50	D201	232	
第2回グループ面接模擬演習 実施内容等検討中です。	●	2	15	月	AM	キャリアセンター	キャリアセンター	自己PRの内容など発展的な内容
			16	火	AM			
			17	水	AM			
			18	木	AM			
			19	金	AM			
			22	月	終日			
			23	火	終日			
			24	水	終日			
			25	木	終日			
			26	金	終日			
第2回グループディスカッション模擬演習 実施内容等検討中です。	●	2	15	月	PM	キャリアセンター	キャリアセンター	基本よりも踏み込んだ内容
			16	火	PM			
			17	水	PM			
			18	木	PM			
			19	金	PM			
就活解禁直前・就職ガイダンス	●	2	23	火	13:35~15:05	D101	232	就活の重点ポイントの再復習 自己PRの書き方、面接の基本、エントリーについてなど
			24	水	13:35~15:05	D101	232	
学内業界説明会 検討・調整中です。	●	2						
合同企業説明会 検討・調整中です。	●	3						

## 企業は、現在の就職活動生をどのように見えているのか — キャリアセンターが行った調査結果から —

### 調査概要

キャリアセンターでは、2015年7月31日までに求人票を頂戴した企業・法人に向けて採用活動の継続について確認するとともに、次の質問項目について回答をお願いしました〔メール発信件数 1,105件〕。

質問項目:「本学の学生に限らず、現在の就活生(大学生)に不足していると思う能力を、選択肢の中からお選びください(複数回答可)。」

〔メール返信件数 441件 質問回答件数 338件(76.7%)〕

### ■選択肢:調査結果集計表

不足項目	回答数	率	不足項目	回答数	率
自ら考える力	168	49.7%	一般教養	47	13.9%
粘り強さ	164	48.5%	ビジネスマナー	47	13.9%
主体性	144	42.6%	論理的思考力	38	11.2%
元気・明るさ	140	41.4%	業界に関する専門知識	28	8.3%
コミュニケーション能力	119	35.2%	チームワーク力	28	8.3%
働く意欲	117	34.6%	語学力	12	3.6%
一般常識	63	18.6%	PCスキル	10	3.0%
課題発見力	63	18.6%	資格取得	10	3.0%
独創性	60	17.8%			

### まとめとして

現在の就活生には「自ら考える力、粘り強さ、主体性、元気・明るさ」が不足していると人事担当者を感じているようです。自ら考えることを放棄し、教えてもらうことばかりに長けている学生が目立つことを意味しています。また、社会的なつながりも希薄となっており、コミュニケーション能力、相手を思いやる気持ちも弱いようです。

人事担当者がこのように感じている中、この結果とは違うひとりでも多くの有為な学生を輩出できれば、本学の運営上のモットーである「後世に残る大学」の実現に結びつけることができると確信し、学生と一緒にキャリアセンターは頑張っていきます。

2014年度から教育後援会の支援(補助)を受けて、定期的なプログラムとして「地域を訪ねて何でもやってみる、学んでみるプロジェクト」(昨年度に引き続き和歌山での防災・減災体験学習)、緊急支援プログラムとして台風18号で甚大な被災を受けた茨城県常総市への緊急支援ボランティア派遣を実施いたしました。学生にとっては教室では学べないとても貴重な経験の機会となりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。今回はその二つのプログラムを報告いたします。

### ◆和歌山県災害ボランティアセンター体験学習

参加学生18名、9月8日～9日

2014年度に引き続き和歌山県社会福祉協議会にご協力いただき体験学習プログラムを実施しました。参加者は和歌山県出身者4名を含む総勢18名です。定員2倍以上の申込みがあり、2014年と同様に非常に人気のあるプログラムです。



和歌山、活動風景

### 特集

## ボランティア活動支援室 災害支援ボランティア報告

# 教育後援会の 補助を受け、 常総市、和歌山で 本学学生が活動

和歌山県では南海トラフ巨大地震を想定して災害ボランティアセンターを常設し、平時の備えとして災害ボランティアの訓練や活動用品の備蓄などを行っています。今回、本学学生は和歌浦にあるストックヤード(備品置き場で、県内で三ヶ所ある)で、備品の整理を行いました。防災・減災に関する講習会も実施いただき、とても実践的な学びの場となりました。



和歌山 全員集合

### ◆緊急支援・茨城県常総市ボランティア

先遣隊(参加学生6名) 9月25日～27日  
第2陣(同10名) 10月23日～25日  
毎年のように大きな災害がある日本ですが、2014年度は兵庫県丹波市と広島市の土砂災害ボランティア、今年度は茨城県常総市の台風18号による水害ボランティアを派遣しました。これも、教育後援会の補助を受けて実施したものです。



常総第2陣、いざ活動先へ



常総先遣隊、ボランティア受付

常総第2陣、活動の説明を受ける



常総先遣隊、被災の状況(農地)





常総第2陣、活動備品を借りて現場へ

常総第2陣  
決壊した被災地の状況

被害の状況は周知のことだと思えますが、鬼怒川の決壊等により甚大な被害を及ぼし、復旧に時間がかかっています。9月9日～11日の大雨等で関東、東北などの広範囲へと被害が広がりましたが、第2陣が現地に入った10月下旬でも被災者からのたくさんの支援要請があり、ボランティアの人手が求められています。

ニュースの頻度が下がり、被災地への支援意識が低下している傾向の中、学生は実際に現地に足を運び、汗を流しながら自然災害の恐ろしさ、日頃の防災・減災への備えの大切さを体感しています。また参加した学生は、経験を神戸に帰着して広げていくことで、「風化」することを食い止めることにつながると感じています。

本学学生に常総市出身者がおり、実家が被災されています。学生同士の助け合いという意味を含めて、災害支援ボランティアはいまこそ求められる希薄となつた人と人とのつながりを再構築する活動でもあると実感しています。



(参加学生の声)

## 常総市 緊急支援ボランティアに参加して

# volunteer

人文学部人文学科2年次生 **野崎 真希帆**  
(ボランティア活動支援室学生スタッフ代表)

常総市は昔ながらの家屋や田んぼが広がる田舎、という印象を受けました。本当にここが水害によって浸水したのか…と思わせるほど静かで、穏やかな雰囲気でした。ですが、よく見るとやはり被害の痕は残っていて、田んぼの稲がなぎ倒されていたり、歩道にも泥が残っていたりと私たちの日常とは少し違う風景を目の当たりにしました。

最初に被害を受けたお宅に伺った時は少し衝撃でした。外から見れば普通のお宅でしたが、中に入ると床が無く、土台の柱が丸見えになっていたのです。そんな私たちボランティアに託されたのは、土台の泥を落とし、また床を張り替えられるようにすることでした。

泥を落とすだけでもなかなかの重労働で、高齢者の多いお宅などはボランティアによる手伝いは欠かせないものであると改めて感じました。台風から1ヶ月以上が経ち、ある程度は復旧が進んでいるのかと思っていましたが、まだまだ住人の方が自宅に戻られるのには時間がかかりそうです。

また、復旧のお手伝いをさせて頂いたお宅は、壁に時計がかけてあるままなど、生活感があり、ここに人が住んでいるんだという気配を感じました。その住んでいる場所を復旧とはいえ全くの他人が片付けることによって壊してしまうのではないかと、という不安を感じた学生も多かったのではないかと思います。支援をするためのボランティア活動ですが、住人の方々を傷つけてしまうかもしれないという葛藤もあり、難しい活動でした。住人の方々の心のケアもこれからの課題なのではないでしょうか。

そして今回、この活動に参加して学んだ一番大きなことは、神戸にいただけでは知らなかった現状を知ることができたことです。やはり、自分の目で見て、活動しなければ分からないことは多いのだと感じました。神戸に帰ってきてからも実際の様子を見てきた私たちだからこそできる支援活動を考えていきたいです。

最後に、手伝いに行きたくても神戸からだとなかなか行けなかった私たちに、今回このような機会を頂けたことに感謝を申し上げます。

## 大学祭を終えて

去る10/31(土)～11/3(火)「第48回135Festival」を開催させて頂きました。まずは、この場をお借りし、大学祭中央実行委員会を代表しまして皆様に御礼申し上げます。

今年度の大学祭のテーマは「Change!!」というテーマの下、4日間大学祭のコンセプトをチェンジしながら開催し、様々なイベントを企画しました。

例えば、1日目が10/31開催のためハロウィンをテーマに「ハロウィン仮装コンテスト」や「フェイスペイント」、「お菓子配り」などを行い、来場された方や模擬店の方などたくさんの方々々に仮装をしていただき、大学祭をハロウィン色に染めることができました。他にも大学祭でしか味わえないような体験企画も行いました。薬学部による人口イクラ製造体験や漢方薬の試飲体験、栄養学部による真空調理体験など普段できない珍しい体験企画も行列ができるほど大盛況でした。

中でも2日目のコンセプトである「ファッション」では、「神戸コレクション」のサポートを受け、神戸学院大学の学生モデル8名の協力により「135festival」で初めての試みであるファッションショーを企画し、大いに大学祭を盛り上げることができました。

こうした見ると当日までは不安もあり、「どんな大学祭になるのだろうか」「お客さんは来てくれるのだろうか」「楽しんでもらうことはできるのか」という思いがずっと心の中にありましたが、当日多くの方々楽しんで頂けている姿を見て自分自身とても安心しました。特に問題もなく無事に開催することができたのも、協力していただいた学生団体の皆様、並びに部員全員の協力のおかげです。大学祭に向けて準備をしているとき、部員一人一人がやるべきことを考え一つのことを成功させようという思いがあったからだと思います。部員全員には感謝の気持ちでいっぱいです。

また、ご指導、ご鞭撻頂きました教職員の皆様、関係各位並びにご協力頂きました地域の皆様や大学祭に関わってくださった企業の皆様に書面で誠に失礼ではございますがこの場をお借りしまして心より御礼申し上げます。今後も神戸学院大学「135Festival」をよろしくお願い致します。

大学祭中央実行委員会  
福田 隆浩





女性の視点から地域の防災力向上を目的に活動している防災女子（学際教育機構 防災・社会貢献ユニット生、現代社会学部社会防災学科生）が、8月26日から大丸梅田店とコラボレーションし、「ローリングストックで味わう・備えるーおいしい常備食フェア」を同店地下2階の食品売場で展開しました。

栄養学部の伊藤智助教の指導で、防災女子が考案したメニューを、栄養面、カロリー面からもチェックし、平常時にも食べたくなるレシピの紹介をしながら、おすすめ商品をセレクトし店頭でのチラシ配布やPOPなどで買い物客にお知らせしました。

大丸と防災女子のコラボ企画を展開

三谷さんは「私の中国語に対する思い」をテーマに発表。一週間という短い準備期間にもかかわらず、中国語コースの先生方の指導成果もあり、見事受賞しました。「賞をいただいても嬉しんです。他の出場者の方のスピーチから学ぶべき点がたくさんあり、とても勉強になりました。これからも積極的に参加し、もっと良いスピーチができるよう頑張りたいです」と話しています。



神戸東洋医療学院 孔子課堂が主催する第7回中国通コンテストの本選が10月10日、神戸市中央区の中華会館であり、グローバル・コミュニケーション学部三谷七海さんが創作部門で審査員特別賞を受賞しました。

中国通コンテストで審査員特別賞を受賞



第38回日本語エッセーコンテスト「私の見た日本と世界」の公開最終選考会（京都国際文化協会主催）が10月18日、京都市国際文化交流会館であり、グローバル・コミュニケーション学部日本語コース1年次生、グエン・ティ・ダン・ティーさんが最優秀賞を獲得しました。受賞したエッセーは「眠らない工場」。24時間体制で稼働するコンビニ弁当の製造工場でアルバイトした体験を、自作の漫画を見せながら紹介。ユーモアにあふれ、前向きな姿勢が共感を呼ぶプレゼンテーションでした。

日本語エッセーコンテスト「私の見た日本と世界」で最優秀賞を獲得

「Q・B・Bベビークーズ」など六甲パターのチーズ製品を使ったマラソンランナーに役立つレシピ作りで、優秀作品に選ばれた栄養学部の表彰式と試食会が9月15日、有瀬キャンパスでありました。計127件の応募があり、最終審査を突破した熊谷早織さん、山本悠加さん、岩崎遙日さん、掛田麻未さん、佐々木真依さん、川口はるかさんの6人（いずれも3年次生）に、同社の三宅宏和社長から表彰状と記念品が贈られました。

優秀レシピの表彰式と試食会が開催されました

◆内閣府広報誌「ほろろ」とは◆  
国民の防災意識を啓発することを目的に内閣府が発行している季刊誌。都道府県市町村、防災推進協議会、公民館、図書館、報道機関などに配布されているだけでなく、WEBページでも閲覧できます。

防災・社会貢献ユニットと現代社会学部社会防災学科の女子学生25名が活動する「防災女子」が、内閣府広報誌「ほろろ」（第80号）で紹介されました。これは、若者が防災に積極的に関わることの意義や、女性の視点から防災を考えることの重要性を発信するために取り上げられたものです。是非ご覧ください。

防災女子が内閣府広報誌「ほろろ」秋号（第80号）に掲載されました！



レシピは、納豆とアボガド、チーズを使った「スタミナネバー丼」や、「サバと豆腐でエンジン全開！サバグラタン」、チーズとモロヘイヤを使った「ネバネバねばねばとろろ焼き」など7件です。本学のスポーツコーディネーター、上谷聡子さん監修の「マラソンレシピブック」として3万部印刷。11月15日に開催された第5回神戸マラソンの参加者らに配布されました。

栄養学部の市村友幸さん、中谷瑞希さん、河野未佳さん、五十嵐千紗さん、松井美甫香さん、明尾真妃さん（いずれも4年次生）が考えた「秋鮭の彩り弁当」が10月26日と28日の2日間、ポークイキャンパスのプレスで限定販売されました。栄養学部の森光寿准教授の「給食経営管理論実習」を受講している学生が16班に分かれ、班ごとにプレスで提供する弁当メニューを考え、市村さんらの班の提案が選ばれました。弁当は、鮭のムニエル、アスパラとしめじのソテー、大豆のコンソメ煮などが入って400円。26、28日ともポークイキャンパスで20食を販売。また、有瀬キャンパスでは各日50食を上限に予約販売を行いました。



**栄養学部生が考えた  
お弁当をプレスで販売**

第25回関西学生対校女子駅伝競走大会兼第33回全日本女子駅伝対校選手権大会関西予選が9月26日、神戸市北区のしあわせの村であり、本学女子駅伝競走部が7位になり、4年ぶり11回目の全国大会出場を決めました。1区の田口真琴さんから、手嶋乃莉子さん、大樽瑞葉さん、杉谷優衣さん、主将の杉山志保さん、そして最終

**女子駅伝競走部が全日本大学女子駅伝  
対校選手権大会に4年ぶり出場**



全日本大会の結果は、残念ながら2時間14分52秒で20位に終わりましたが、強い風と時折降る雨の中を懸命に走りました。当日、応援バスで駆け付けた吹奏楽部やチャーター部、陸上部員のほか、西本誠實理事長や同窓会メンバーらが沿道などから熱い声援を送りました。大江秀和監督は「応援にきていただきありがとうございます」。来年も再来年も出場できるように頑張ります。また応援をよろしくお願いします」とあいさつしました。



**経済学部の岡部ゼミ生らが  
菅元総理に講演を聞き、質問しました**

東京で合同ゼミを開いている経済学部の岡部芳彦准教授のゼミ生、東洋大、長崎県立大のゼミ生らは25日、混成11チームにわかれ「原発問題」「TPP」「安全保障政策」についてプレゼンテーションを作成し、最終報告をしました。うち5チームが、午後から衆議院第一議員会館で菅直元元総理にグループワークの内容を報告。その後、元総理の講演を聴きました。話は原発問題を中心に、日本の将来のエネルギー政策にも及び、菅元総理は「今の若者に希望を持っている。投票に行くのは、権利ではなく義務だ。もし皆がどうでもいと思つたら、民主主義は成り立たない。自分たちの世代も若い世代のために何かしないとけない」などと語りました。講演の後の質疑応答では、岡部ゼミ生が「日本の原発の海外への輸出をどう思うか」などと次々と質問しました。

6区の大島万由子さんと6人が懸命にタスキをつなぎ、10月25日に仙台市で開催の全日本女子駅伝対校選手権大会の出場キップをつかみました。

学生の活躍

栄養学部生とジョリポアの「コラボパスタ

「美りの秋」をコンセプトに、栄養学部の岩永真生さんと上野千晴さん（いずれも2年次生）がポトアイランドキャンパスのレストラン「ジョリポー」と企画したパスタを11月18日から12月1日まで、1日30食限定で販売しました。百武愛子助教のアドバイスを受けながら試作を行い、ブラッシュアップしたものをジョリポーの藤田達幸料理長へ提案。話し合った結果、「美りの秋！まろごとさんまときのこのパスタ（仮称）」に決めました。さんまを低温の油で揚げて骨まで軟らかく仕上げる「コンフィ」にすることで、骨ごと食べられカルシウムを摂取することができます。さらに、きのこのこと、香ばしい風味とビタミンEなどの栄養素を豊富に含むナッツもプラスしました。

バトン部が金賞獲得

第37回バトントワーリング関西大会が11月3日、大阪市中央体育館であり、バトン部が関西大会の部に出場。一般の部1位の得点で金賞を獲得しました。大会は、関西大会の部と全国推薦の部に分かれ、小学生から一般まで70チーム、約1200人が参加。それぞれ、息の合ったすばらしい演技を繰り広げました。バトン部の渡辺菜月部長は「今年度の最後の大会で金賞を受賞することができてうれしく思います。ミスもありましたが、良い締めくりができました。また新たな目標に向かって頑張りたい」と話しています。

リノベーション企画の採択

団地再生モデルとして、兵庫県が募集した老朽化が進む明舞団地の分譲集合住宅のリノベーション企画で、社会リハビリテーション学科（糟谷佐紀准教授）と（株）メゾンデル（神戸市長田区）の共同提案が採択され、実際に改修したモデルルームが11月7日、他のモデルルームとともに「斉公開されました。」

メゾンデルとコラボした部屋は、公的介護保険と県の「人生80年いきいき住宅助成事業」を活用した高齢者向けのプランです。浴槽の段差の解消や手すりの取り付け、和室から洋室へ床材を変更するなど、要介護者と次世代を生きる人々が快適に過ごせる工夫が凝らされています。

初日は、糟谷先生のほか、ゼミ生の村上岳さんと今泉佑基さん（いずれも3年次生）、ゼミOGで同社に勤務する長洲つぐ美さんが、糟谷先生と共に見学者に説明をしました。



女子駅伝競走部の杉谷さんが神戸マラソンで優勝

第5回神戸マラソンが11月15日あり、女子の部は女子駅伝競走部の杉谷優衣さん（人文学部2年次生）が2時間42分01秒のタイムで優勝。同じく女子駅伝競走部の大樽瑞葉さん（同1年次生）と大島万由子さん（同2年次生）も、それぞれ4位と7位に入賞しました。杉谷さんと大樽さんはマラソン初挑戦でした。



優勝した杉谷さんは、「15キロを過ぎた時点で、沿道の方から『女子の先頭集団だよ』と教えてもらってトップグループにいたことがわかりました。自分が優勝できると思うとおらず、最後は実業団の方に抜かれちゃうんだらうなと思っていました。ラストの200メートルでも追い越されると思っていたので、優勝できて本当にうれしいです」と話しています。

大江秀和監督は「30キロまでは3人一緒に駆けという指示を出していました。杉谷は火曜日に熱を出して点滴をしたのですが、その休息が幸いしたのかもしれない」と話しています。

明石市文芸祭で、小説創作研究会「うぐいす」の岡田顧問と部員2人が受賞

第42回明石市文芸祭（明石市文芸祭実行委員会、明石市主催、明石市教委、神戸新聞社後援）の表彰式が11月23日、明石市生涯学習センターで開催され、小説創作研究会「うぐいす」から、顧問の岡田悦夫・内部監査室長兼内部監査役が神戸新聞社賞に、また、部員の伊藤陸さん（人文学部4年次生、ペンネーム宇久井リト）と岩元愛理さん（同3年次生、同「うぐいす」）が文芸祭賞をそれぞれ受賞しました。岡



田顧問の受賞は、一昨年のわがふるさと文芸賞、昨年の神戸新聞社賞に続き3年連続で、通算15回目の入賞。小説部門で、顧問と学生の同時受賞は今回が初めてです。

# CAMPUS TOPICS

## ANAビジネスソリューションと

### 教育連携協定を締結

本学とANAビジネスソリューション株式会社（本社・東京都港区）の教育連携協定調印式が8月26日、ポートアイランドキャンパスであり、岡田豊基学長と同社の宮川純一郎社長が協定書に調印しました。締結により、本学は9月1日からグローバル・コミュニケーション学部主催で、エアライン業界を目指す学生らを対象にした学内講座、10月にはANA神戸空港での旅客サービスの実務体験を行うプログラム「ANAエアラインスクール学内講座」をスタートさせます。同社とのこうした連携協定は関西の総合大学では初めてです。

調印式には、本学から岡田学長のほか伊藤茂副学長、松本史朗事務局長、野口ジュディ・津多江・同学部長ら、ANAビジネスソリューション側からは宮川社長のほか、阿瀬尚行取締役、八島聡経営企画室長、現役キャビンアテンダント講師の上田紀子主席部員らが出席。調印式の後、宮川社長は「来年は大学創立50周年という節目の年に連携協定が締結できてうれしく、光栄に思います。自ら課題を見つけ、ハードルを乗り越えていくことができる、私たちANAグループと一緒に働きたいと思えるような人材を育てたい。ANAグループは路線を拡大しており、ネットワークを支える優秀な人を確保し、意識の高い学生を最大限サポート

していきたい」、岡田学長は「おもてなしの心を持った学生を育成できることを楽しみにしています。立派な大人に育てていただきたい」とそれぞれ挨拶しました。



## 大阪市立総合生涯学習センターと

### 包括的連携協定を締結

本学と大阪市立総合生涯学習センターは9月14日、包括的連携協定の調印式を行いました。阪神・淡路大震災の震源地に最も近い総合大学で、全国に先駆けて「社会防災学科」を開設した本学と同センターが連携し、地域社会における社会的課題「防災・減災」について、大阪市に焦点を当てた防災学習プログラムの開発に着手し、普及、活用を進める5か年計画をスタートさせます。

調印式は午前10時45分から、A号館6階会議室であり、本学から岡田豊基学長、松本史朗事務局長ら4人、大阪市からは同センターの岡本和夫所長、教育委員会事務局生涯学習部の濱崎正行生涯学習担当課長ら4人が出席。



岡田学長は「震災の経験や、本学の防災教育を活かし、新たに進めていく連携事業に期待を寄せています」とあいさつ。続いて岡本所長も「防災に力を入れる大学と協力できるのは大変心強いです」と語り、調印文書を取り交わしました。

神戸市と包括連携協定を締結

本学は10月2日、神戸市と包括連携協定を締結しました。久元喜造市長と岡田豊基学長が市役所で記者会見し、協定書を取り交わしました。本学と神戸市はこれまで、年間約60件の連携事業に取り組み、個々の事業目的に沿った協定、覚書を結んできました。今後は事業ごとの連携から組織的な連携関係へと発展させ、より強固な結びつきを目指します。同市は2013年、神戸大学と同様の協定を結んでいます。私立大学では本学が初めて。



- 連携事項は、
- ①防災、減災に関する事
  - ②地域振興、地域課題の解決に関する事
  - ③地域福祉の向上、子育て支援に関する事
  - ④教育の推進、人材育成に関する事
  - ⑤科学技

術、産業振興に関する事⑥国際交流の推進に関する事⑦その他前条の目的を達成するために必要な事項に関する事。協定の有効期間は締結日から1年で、その後も更新していきます。

岡山県と就職協定を締結

本学は12月1日付で、岡山県と「就職支援に関する協定」を締結しました。地域経済を支える人材の育成、確保に向けて、本学と岡山県の双方が連携・協力するのが目的です。学生に対する県内企業情報、各種イベントなどの提供、学内での岡山県企業合同説明会の開催などを行い、同県出身学生のUターン就職を支援します。

本学は、同様の協定を四国4県と鳥取県と既に結んでおり、岡山県は6番目。今年4月現在、岡山県出身の学生は265人在籍。今春卒業した学生のUターン率は40.6%でした。

今回の協定の主な内容は以下の通りです。

- (1) 学生や、その保護者に対する岡山県内の企業の情報、各種イベント等の周知に関する事
- (2) 学内で行う合同企業説明会等の開催に関する事
- (3) 学生のUターン就職等に係る情報の交換及び実績の把握に関する事
- (4) 学生のUターン就職等活動の支援に関する事
- (5) その他学生のUターン就職等の促進に関する事

2015年度  
学位記授与式

2015年度の学位記授与式が左記のとおり執り行われます。保護者の皆様のご来場を心よりお待ちしております。

なお、会場(体育館)は卒業生で満席となるため、誠に恐縮ですが、**保護者の皆様には別会場(9号館メモリアルホール・961視聴覚教室)において式の様子を中継でご覧いただきます。**

また、本学は駐車場がございませんので、お越しの際には公共交通機関をご利用ください。近隣商業施設への迷惑駐車は絶対におやめください。

場所

神戸学院大学有瀬キャンパス

日時

2016年3月22日(火)  
午前10時~(開場9時15分)



学生支援事務室

●保証人の変更および住所変更について

保証人の異動があった場合、または、住所を変更した場合は速やかにお子様を通じてKPC事務センター(学生支援)またはKAC学生支援事務室に届け出てください。届出のない場合、学費の納付書、本会報などが届かない場合がありますので、ご注意ください。

●日本学生支援機構奨学生の方へ  
奨学金継続願の提出について(重要)

日本学生支援機構の第一種・第二種奨学金の貸与を受けている、現在1年次生～3年次生(薬学部は1年次生～5年次生)の方は、インターネットでの継続手続きが必要です。この手続きをしなければ、次年度の奨学金は貸与されません。必ず手続きするように、お子様にお伝え願います。

なお、継続願の手続きについては奨学金専用掲示板および学内情報サービスから配信されるメールで確認するようお願いください。

また、来年度の奨学金が不要の場合はKPC事務センター(学生支援)またはKAC学生支援事務室で至急手続きを行ってください。

継続手続き(インターネット入力)  
締切:1月20日(水)まで

●卒業予定の方へ  
返還手続きについて

日本学生支援機構第一種・第二種奨学金

の貸与を受けていて、2016年3月卒業予定の方は、返還手続きを行っていただきます。(2009年度までに採用された方と2010年以降に採用された方では手続き書類が異なります。)

まだ提出していない方は、1月22日(金)までに提出するようお願いいたします。事情により提出が遅れている場合は、その旨申し出てください。

●2016年度 奨学生募集

2016年度採用の奨学生の定期募集を行います。出願が必要な場合は、「奨学金出願のしおり」を表2の配付期間中に受け取るよう、お伝え願います。しおりには出願に必要な書類がとじ込まれています。しおりがないと出願できませんので、奨学金受給希望者は必ず配付を受けてください(期間終了後の配付は行いません)。

また、奨学金制度について詳しく聞きたい場合や、初めて出願する方を対象に出願説明会を行いますので、奨学金が必要な方は奨学金専用掲示板で確認の上、必ず出席するよう、お伝え願います(保護者の方の出席は不要です)。

※注1 現在4年次生(薬学部は6年次生)で、留年等の理由で2016年度も引き続き在学することになり、奨学金を必要とする場合は、なるべく早く奨学金担当窓口にご相談ください。

※注2 学内(神戸学院大学貸与・支給)奨学金は採用期間が1年間です。2015年度学内奨学生で、2016年度も奨学金を希望する方は申し込みをする必要があります。

表1 奨学金概要

種類	条件	金額	種別	交付	
日本学生支援機構	第一種	月 自宅 54,000円 自宅外 64,000円 共通 30,000円	貸与	無利子 有利子 年利上限3%	原則として 毎月一回振込
	第二種	額 3万円・5万円・8万円・10万円・12万円の5種類の中から選択			
神戸学院大学	貸与奨学金(学部生)	日本学生支援機構第一種と同額	貸与	有利子 年利 1.5%	年3回に分けて振込
	臨時貸与奨学金(学部生)	未納付の学費相当額以内			随時
	支給奨学金 (経済支援給付奨学金) (学部生)(外国人留学生を除く)	年額 360,000円	支給	年2回に分けて振込	
地方公共団体・民間団体奨学金	奨学金の種類により条件が異なります。奨学金専用掲示板で確認してください。				



通学の際には公共交通機関の利用を

近年、兵庫県下では、二輪車乗車中の交通事故が増加しています。その特徴として、速度超過でカーブを曲がりきれず電柱に衝突、交差点で対向右折車と衝突、ツーリング中の転倒事故などがあります。本学学生が当事者となる単車の事故も後を絶たず、大きな事故も発生しています。

本学では、ポートアイランドキャンパスはトレーラー等の大型貨物自動車が多数往来する中、4車線の車線変更を行なわなければならない、交通事故の発生する危険性が高いため、単車・自動車通学を全面禁止にしています。有瀬キャンパスにおいては、交通事故防止及び大学近隣の迷惑・不法駐車への対策として、駐車場利用許可者以外の自動車通学は禁止し、単車についても自粛を呼びかけています。

学生を交通事故から守るためにも、交通安全とマナーや法規の厳守につきまして、保護者の皆様からご指導いただきますようお願いいたします。

表2 2016年度奨学生定期募集日程

奨学金出願のしおり配付期間	2016年1月6日(水)～3月4日(金) (窓口受付時間帯)
場所	KPC事務センター(学生支援)またはKAC学生支援事務室
募集を行う奨学金	日本学生支援機構奨学金(第一種・第二種)学内貸与奨学金学内支給奨学金(経済支援給付奨学金)
対象者	学部生で、奨学金受給を希望する方
その他	出願説明会、願書受付期間等については、奨学金専用掲示板でお知らせします

# マイナンバー制度が始まりました!

2016年1月よりマイナンバー制度が始まりました。マイナンバー(個人番号)は、住民票を有する全ての国民一人ひとりに1つの番号が付与され、社会保障、税、災害対策の行政手続で必要となります。

マイナンバーの通知カードは、各市区町村から2015年10月5日時点の住民票の住所に送付されています。マイナンバーは原則として一生使用されるものとなります。学生においても、アルバイト等の採用に当たってマイナンバーの提示を求められることがあります。また、日本学生支援機構の奨学金の貸与についても、2017年4月以降、マイナンバーの利用が開始される予定ですので、大切に保管し、取扱いは十分に注意してください。

マイナンバー制度の詳細については、下記ホームページを参照してください。

- マイナンバー(社会保障・税番号)制度に関する文部科学省からのお知らせ(文部科学省)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kaikei/zeisei/1362172.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kaikei/zeisei/1362172.htm)
- マイナンバー 社会保障・税番号制度について(内閣官房)  
<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/bangoseido/index.html>



## What is マイナンバー? 大学生も、留学生も

### 1. マイナンバーとは何のこと?

国民一人ひとりが持つ12桁の番号のことです。番号が漏えいし、不正に使われる恐れがある場合を除き、一生変更されませんので大切にしてください。



### 4. インターネットから閲覧できるの?

2017年1月からマイナポータルで地方公共団体や行政機関の間での個人情報のやり取りの記録が、ご自宅のパソコンでも確認できるようになります。  
※マイナポータルの機能の詳細は検討中です。

### 2. どうしてマイナンバーが必要なの?

#### 1. 行政の効率化

行政機関などの業務に要している時間や労力や、作業の重複などの無駄が削減されます。

#### 2. 国民の利便性の向上

行政手続きが簡素化され、国民の手続きが軽減。

行政機関が持つ自分の情報が確認できます。

#### 3. 公平・公正な社会の実現

納税を不当に免れることや給付を不当に受けることを防止します。

### 5. 個人番号カードとは何のこと?

マイナンバーの通知後に市町村区に申請をすれば身元証明や様々なサービスに利用できる個人番号カードが公布されます。



### 6. いつマイナンバーが必要?

2016年1月から社会保障、災害対策、税の行政手続を行うときにマイナンバーが必要になります。



### 3. 自分のマイナンバーはどう知るの?

2015年10月から市町村より住民票の住所にマイナンバー通知(通知カード)が送られます。外国籍でも住民票のある人は対象になります。

10月までに住民票の確認や異動を行ってください。

※一人暮らしの学生は特に注意!



- ◆年金の資格取得や給付
- ◆雇用保険の資格取得や確認、給付
- ◆医療保険の給付請求
- ◆福祉分野の給付、生活保護など
- ◆被災地生活再建支援金に支給
- ◆被災者台帳の作成事務 など
- ◆税務当局に提出する確定申告書、届出書、調書などに記載
- ◆税務当局の内部事務 など

## 注意点CHECK マイナンバー制度 スケジュール

平成27年10月までに

自分の住民票がどこにあるのか確認を行い、確実に受け取れるように準備すること。

平成27年10月から

お手元にマイナンバー通知が届きます。  
マイナンバーはみだりに他人に教えないこと。  
通知カードは絶対に捨てないこと。

平成28年1月から

社会保障・災害対策・税の行政手続きでマイナンバーが必要になります。  
申請者には個人番号カードを配付します。

アルバイト先にマイナンバー提供を求められた場合、個人番号カードまたは通知カードと身元確認書類(学生証等)を持っていくこと。

平成29年1月から

マイナポータルが開始予定です。

年末調整、確定申告の季節。  
給与と所得税を確認すること。

神戸マラソンを通して生まれる「きずな」



神戸マラソンは、女性ランナーの登竜門として開催されていた、神戸全日本女子ハーフマラソンを前身大会とし、その大会で本学の学際教育機構防災・社会貢献ユニットがAEDボランティアとして活躍をしていました。このAEDボランティアは、神戸市消防局が1世帯に1人の市民救命士を養成することを目標に掲げており、防災・社会貢献ユニットでは、先駆的に、市民救命士のインストラクター取得をカリキュラムに組み込み、学生によるFAST（民間救急講習団体）を立ち上げるなど、地域救命の一助を担う活動をしていました。

このようなつながりの中で、2010年に神戸マラソン準備委員会が設立され、ボランティアリーダーの養成研修の構築や全面的な学生ボランティアの協力などを行い、第1回神戸マラソンは開催されました。

神戸マラソンは、「感謝と友情」をテーマに、阪神・淡路大震災からの復興において、「手を差し伸べていただいた国内外の人々や地域への感謝の気持ち」を表明する大会として2011年からスタートしました。神戸学院大学は、第1回大会から継続的に教育・研究・社会貢献を柱に、多くの学生と教職員が一体となって、地域に愛されるオンラインの都市型マラソンを目指す神戸マラソンと共に歩んできました。

神戸マラソンでは大会を迎える準備として「する人・観る人・支える人」をサポートする様々な共同事業を実施しています。そのひとつが、本学と共に歩んできた神戸マラソン実行委員会との共催イベント「神戸マラソンレディスランニングクリニック」の開催です。本学スポーツコーディネーターの上谷聡子さんが講師を務め、学際教育機構スポーツマネジメントユニットの津田真郎教授、総合リハビリテーション学部理学療法学科の大久保史司助教と共に、神戸マラソン完走を目指すランナーのサポートを行いました。また、ラジオ関西の神戸マラソン応援番組への出演や、オフィシャルスポンサーの六甲バター株式会社と栄養学部生との連携によるランナーの栄養を考えた「マラソンレシピブック」を作成。大会の危機管理向上や安心安全な大会を目指すことを目的に緊急時対応訓練を2014年より実施。



栄養学部×六甲バター(株) マラソンレシピブック



神戸マラソンレディスランニングクリニック in 神戸学院大学



EXPOランナー受け、社リハ学生と附属高校の生徒と一緒に活動しました!

学生がシミュレーションスタッフを務め、大会における危機管理の重要性を学びました。

また、ボランティアへのサポートとして大会直前に開催されるボランティア説明会において、大会の救護体制を強化し、スムーズに第一次救命対応ができるよう、防災・社会貢献ユニットと現代社会学部社会防災学科のFASTに所属する学生が、ボランティアリーダーを対象に救命士講習会を実施しました。



ボランティア説明会で心肺蘇生法を説明する社会防災学科生

大会当日の11月15日。開催直前まで雨が心配されましたが、スタートの号砲とともに太陽の光が差込み、ランナーにとっては暑く厳しい大会となりました。

今年の第5回大会は、過去4回の大会で培った、震災復興をテーマとした様々なつながりを次のステージへとつなぐ意味を込めて「『ありがとう』をつぎの一步へ」をテーマに開催。



垂水エリアで給水ボランティアをした  
社会リハビリテーション学科生



フィニッシュエリアでスプレー隊を務めた、理学療法学科生

大会では、女子の部で女子駅伝競走部の杉谷優衣さん（人文学部2年次生）が見事優勝、同部の大樽瑞葉さんが7位、上谷聡子さん（本学スポーツコーディネーター）が10位に入りました。

じ、仲間と共に活動することで心がひとつになったことを実感しました。



EXPO通訳ガイドを務めた社会リハビリテーション学科生

大会前々日のランナー受付（神戸マラソンEXPO）から大会当日までの3日間、のべ631人の学生と附属高等学校の生徒が、通訳ガイド、ランナー受付そして、救護給水、給食、応援イベントなどの活動に参加し、活動を通して感謝の言葉の素晴らしさ、互いに支え合う心、人に伝えることの難しさを感じ、仲間と共に活動することで心がひとつになったことを実感しました。

## 参加学生の感想文

私が担当したのは残り約2km地点の給水所だったので、ランナーの方たちはとても辛そうでした。それにもかかわらず、「ありがとう」「ボランティアお疲れさま」と声をかけていただき驚きました。私も辛いときこそ笑顔と感謝の気持ちを忘れない人になりたいと心から思いました。

人文学部 人文学科 3年次生 田上舞果



ポートアイランドで給水ボランティアをした  
田上舞果さんと同学部の山階佳奈さん



フィニッシュエリアで救護ボランティアをした 奥田勇希さん

今回、神戸マラソンのフィニッシュエリアの救護を担当させていただきました。バイタルサインの確認や車いすでの搬送、ストレッチングなど、学校や病院実習で学んだことをランナーの方々をサポートすることで社会に還元でき、非常に良い機会になりました。ゴー

ル後のエリアであったため、ランナーの方々皆さん満身創痍の様子でしたが、ランナー同士で励まし合い、沿道で応援している方々や私達スタッフに笑顔で感謝を伝えていた姿に感銘を受けました。救護をした後に言っていたいただいたありがとうの言葉が胸に残りました。

△総合リハビリテーション学部 医療リハビリテーション学科 理学療法専攻 4年次生 奥田勇希

今回、私は固定AED隊として、神戸マラソンボランティアに参加しました。今まで行ってきたボランティアとは少し違い、自分の手に人の命が懸かっているということから、もの凄く緊張しました。幸いにも、私の担当ブロックでは何も起こることなく、ランナーの方々を送り出すことができました。ランナーの方々に声をかけると、笑顔で「ありがとう」と言っていたことが本当に嬉しかったです。



三宮兵庫ブロック24区で固定AED隊として活動した  
竹下良太さん

△現代社会学部社会防災学科 1年次生 竹下良太

※神戸マラソンは、兵庫県・神戸市・兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会・兵庫陸上競技会が主催する大会です。

# グリフィス

グリフィス大学夏期研修参加者  
経営学部2年次生 溝脇 三麗

今回のグリフィス大学夏期研修では英語以外にも、多くのことを学んだり考えたりすることができました。

クラスメイトだけではなく、オーストラリアが多民族国家の国なので、ホストファミリーや街で出会う人たちの出身国は様々です。このような国に身をおき、共に生活をしたことにより、日本では普段考える機会がない「自分」を見つめることができたと思います。

一番のきっかけとなったのは、オーストラリアでは初めて会った人や友人と話をしているときなどに、自分と同じところではなく違うところを見つけたら「私と違うね」と嬉しそうに言うことです。日本の場合は、その人と自分の同じ部分を探して安心や喜びを感じ、違う部分はあまり取り上げることがありません。なので、初めて違うねと言われたときは驚いたとともにショックを受けてしまいました。ですが、「違う」という言葉は否定的なイメージをもつものではなく、肯定的なものだということに気づき、違いを見ることができるようになった結果、今まで見えていなかった自分が見えてきたのです。

また、研修に参加したメンバー同士の中で気づき、気づかされるが多かったと思います。今回の研修に参



加したのは13人で例年より少ない人数でした。人数が少なかったことが功を奏したのか13人全員がすぐに仲良くなり研修が終わるころにはまるで家族のようになっていました。このような関係の中で行動を共にしているとそれぞれに役割が生まれていき、その役割の中でそれぞれの良いところ、心がけたいところをお互いに見つけることができました。

このように自分について考えることが多かったですが、何よりも気づかされたのは人との縁の大切さです。自分について考えることができたのも研修を共にしたメンバーや、ホストファミリーなど素敵な人たちに出会えたからこそだと思います。これからも一度出会えた縁を大切に大学生活を送りたいです。



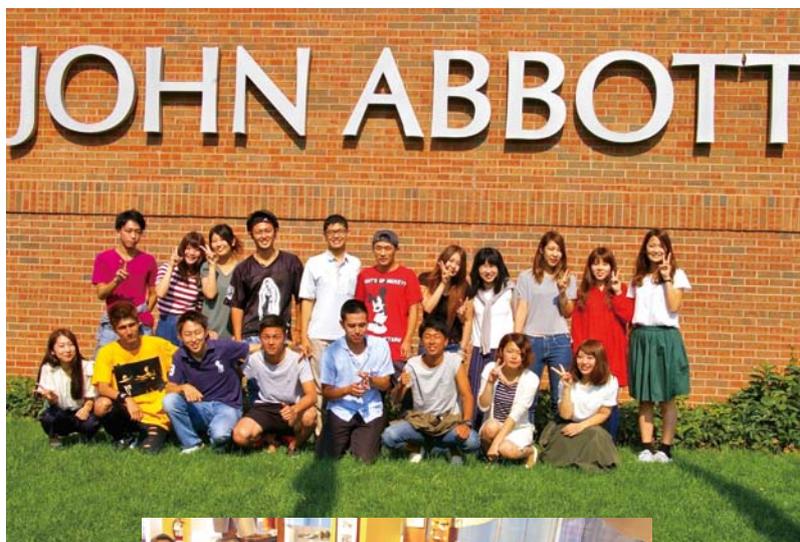
# JAC

JAC夏期語学研修参加者  
経営学部4年次生 橋本 優一

John Abott College夏期語学研修は1987年に始まり、今回で25回目を迎えました。John Abott College、通称「JAC」では、英語やカナダの文化や生活などを肌に触れながら学びました。

この研修では20名の学生が参加し、英語を本場で学習しました。英語だけでなくホストファミリーやJACのボランティア学生とも交流し、国際的な友人関係を築くのに最高の研修でした。JACはカナダのケベック州モントリオールにあります。自然が豊かで近くには湖もあり、とても気持ちいい場所です。そこでボランティア学生とスポーツや世間話などをして友好を深めました。また、モントリオールの中心地へ授業を担当してくださった先生や学生たちと行き、カナダの文化や生活に触れながら散策しました。もちろんお土産も購入し、特にメープルは有名でメープルシロップ店のオーナーの講座を聞く体験をしました。

研修の半ばにはナイアガラやトロントを訪れました。ナイアガラではナイアガラの滝を間近で見てそのスケールに驚きました。トロントでは観光バスに乗ってガイドを聞き、日



本とは異なる景色や空気を感じました。ナイアガラやトロントでは、観光もしましたが、授業で学んだことを活かす機会が何回もありました。そして、最終週にはホストファミリーやボランティア学生を招いて日本の文化を紹介するジャパンナイトを開催しました。折り紙や書道、射的、わらび餅などを紹介しました。ホストファミリーやボランティア学生は、日本の文化について知ってはいても体験したことがないという人が多かったです。普段では体験できないような東洋と西洋の文化の違いをお互いに学べたのではないかと思います。着物を着て参加した神戸学院生もあり、現地の方々にとっても好評でした。

最後になりますが、私たち参加学生は英語漬けの日々を送り、日本には経験できないことを体験しました。誰もがこの研修に参加してよかったと感じており、JACでできた友人とまた会いたいと願っています。



# 2016年度 行事予定表

前 期	
2016. 4. 1	金 学年始め 新入生指導週間（～7日）
6	水 入学式
8	金 授業開始 履修登録（全学部全年次）（～11～15日）
19	火 履修登録確認訂正（全年次生）（～20日）
29	金 昭和の日（祝日授業日）
5. 2	月 前期学費納入最終日
7. 1	金 定期試験時間割発表
18	月 海の日（祝日授業日）
22	金 火曜日科目の授業日
23	土 水曜日科目の授業日
25	月 木曜日科目の授業日 授業終了
26	火
30	土 土曜・月曜日科目の試験日
8. 6	土
8	月 予備日
9	火 夏期休業（～9月18日）
25	木 成績発表（前期卒業見込者・再試験受験願受付）
27	土 追・再試験時間割発表
30	火 追・再試験開始
9. 2	金 追・再試験終了
12	月 成績発表（全学部全年次） 後期履修指導 （全学部1年次、法・経済・経営・GC 人文・現代社会・総リハ2年次以上）
16	金 前期卒業生発表
24	土 前期学位記授与式

後 期	
8. 29	月 授業開始〔栄4年次生、～12月14日〕 木曜日科目の授業日〔栄4年次生〕
30	火 金曜日科目の授業日〔栄4年次生〕
9. 2	金 授業開始〔薬4年次生、～11月30日〕 〔薬6年次生、～12月2日〕
12	月 後期履修指導（全学部1年次、法・経済・経営・GC・人文・現代社会・総リハ2年次以上）
19	月 授業開始〔栄4・薬4・6年次生を除く〕 敬老の日（祝日授業日） 履修登録（全学部1年次、法・経済・経営・人文・GC・現社・総リハ2年次以上、～21日）
22	木 秋分の日（祝日授業日）
23	金 履修登録確認訂正（23・26日）
10. 10	月 体育の日（祝日授業日）
31	月 後期学費納入最終日
11. 3	木
6	日
12. 5	月 定期試験〔薬6年次生、～12月9日〕
15	木 定期試験〔栄4年次生〕
25	日 冬期休業（～1月5日）
2017. 1. 10	火 臨時休業日（創立記念日振替）
11	水 定期試験時間割発表
17	火 追試験〔薬6年次生、～1月18日〕
20	金 授業終了
21	土 土曜・火曜日科目の試験日
30	月 休業日（一般入試日前期日程）
31	火 休業日（一般入試日前期日程）
2. 4	土 土曜・月曜日科目の試験日
6	月 予備日
14	火 追試験〔薬1～4年次生、～2月16日〕
15	水 成績発表（薬6年次生）
21	火 成績発表（4年次生〔薬以外〕） 再試験受験願受付（～22日）
24	金 追・再試験時間割発表
27	月 成績発表 （全学部1～3年次生・薬4・5年次生） 追・再試験開始（薬学部専門教育科目以外）
3. 3	金 追・再試験終了 薬学部6年次卒業生発表
10	金 薬学部6年次学位授与
15	水 卒業生・進級者発表
22	水 学位記授与式
28	火 次年度履修指導、履修書類配付
31	金 学年終り

## 2016年度の祝日

昭 和 の 日	4月29日	文 化 の 日	11月3日
憲 法 記 念 日	5月3日	勤 労 感 謝 の 日	11月23日
み ど り の 日	5月4日	天 皇 誕 生 日	12月23日
こ だ も の 日	5月5日	元 日	1月1日
海 の 日	7月18日	振 替 休 日	1月2日
山 の 日	8月11日	成 人 の 日	1月9日
敬 老 の 日	9月19日	建 国 記 念 の 日	2月11日
秋 分 の 日	9月22日	春 分 の 日	3月20日
体 育 の 日	10月10日		

## 医療室のご案内

医療室では、学生が健康な大学生活が送れるように、支援を行っています。学内で体調が悪くなったときは、状況に応じて応急処置や近隣の医療機関を紹介しています。

毎年3月～4月にかけて学校保健安全法に基づいて、定期健康診断を実施しています。

キャンパス（広報誌）・掲示・ホームページ・メールにも掲載しておりますが、必要に迫らないと受診しない状況で100%受診には至っておりません。年1回健康状態をチェックする機会でもありますので、保護者の皆様からご指導いただけますようお願いいたします。

また、ポートアイランドキャンパス・有瀬の医療室では医師による健康相談を行っています。身体的・精神的な悩みなど、相談内容は一切秘密ですでお気軽にご相談ください。

### ポートアイランド(C号館1階・医療室)

曜日	相談内容	相談時間
水	健康相談（外科・内科など）	14:30～16:30
木	精神保健相談（月2回）	14:00～16:30

### 有瀬(大会館1階・医療室)

曜日	相談内容	相談時間
月	健康相談（内科など）	14:00～16:00
木	精神保健相談（月2回）	14:00～16:30
金	健康相談（内科など）	13:30～14:30
	女性の健康相談（第2・3金曜日）	

## 神戸学院大学 教育後援会

〒651-2180 兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬518番  
TEL:078-974-1551(代) MAIL:kouenkai@j.kobegakuin.ac.jp  
http://www.kobegakuin.ac.jp/support/education\_support/



公式HPだけでは紹介しきれない神戸学院大学の魅力を、随時更新しお伝えしています。



★皆さまからのいいね！もお待ちしております。

http://www.facebook.com/kobegakuinUniversity



地球環境保護のため、この印刷物にはFSC®認証紙および植物油インキを使用しています。また、有害廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。